分散登校の意義

資料3

休業期間の長期化に伴う

①子どもの心身のケア

・大半の時間を家の中で過ごしている

・友だちや先生と会えない

→ ストレス

②新学期に向けた生活リズムの回復

・毎日学校に通うための準備

感染予防策

◇ 家庭での健康観察、登校時の体温測定による
　ダブルチェック

◇ 教職員の健康状態の確認

◇ 手指の消毒や手洗いの徹底

◇ 会場の十分な換気、清掃、消毒

◇ 子どもたちの間隔は２m程度（マスクがない場合）

◇ 風邪の症状がある場合は登校させない

実施方法

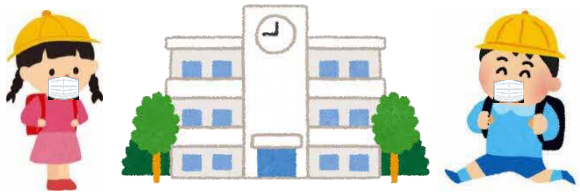
◇ 学年・学級・地区単位に分散して登校

◇ 体育館、地区会館等の公共施設も活用

◇ 初回は、感染予防の正しい知識と
　実践方法を指導

◇ 当面、週１回60分程度

◇ 通常の授業とは異なり、欠席も可



・学校、地域の集会所
・時間差で登校
・学年や学級単位

・家庭での健康観察、登校時の体温測定
・手指の消毒、手洗いの徹底
・子ども同士の接触を避けるため、教職員が誘導

・十分な換気、清掃、消毒
・子どもたちの間隔は、２ｍ程度